

JA全農ウィークリー

J A Z E N - N O H W E E K L Y



2面

農業用ドローンによる
水稻種子散播実演会
(秋田県本部)

4-5面

JAアクセラレーター第5期
採択企業10社を決定
(経営企画部)

Web版
JA全農ウィークリーは
こちらから



<https://www.zennoh-weekly.jp/>

全国農協カントリーエレベーター協議会第51回総代会を開催

上級オペレーター認定式で15人を認定

米穀部

認定された上級オペレーター



2022年度上級オペレーター認定者(敬称略)

No.	県名	JA名	施設名	氏名
1	北海道	上川ライスターミナル(株)	鷹栖工場	黒川 翔平
2	青森	JA津軽みらい	北CE	福士 直樹
3	宮城	JA古川	大崎市古川ICE	三浦 博行
4	宮城	JA新みやぎ	田尻CE	渋谷 晴記
5	宮城	JA新みやぎ	小牛田CE	木村 忠晴
6	宮城	JA新みやぎ	小牛田CE	佐々木 広基
7	宮城	JAいしのまき	東松島CE	中塩 栄貴
8	秋田	JA秋田おぼこ	仙南CE	堀江 進
9	新潟	JAみなみ魚沼	大和CE	豊野 佳之
10	石川	JA松任	中央CE	村中 賢志
11	岐阜	JAひがしみの	恵那北CE	坪井 克志
12	福井	JA越前たけふ	中央CE	中村 武史
13	兵庫	JA兵庫六甲	加茂RC	西 博光
14	佐賀	JAさが	JAさが杵島東部地区CE利用組合	東島 拓也
15	熊本	JAたまな	横島CE	松岡 博士

全農が事務局を務める全国農協カントリーエレベーター協議会は6月5日、東京・大手町のJAビルで第51回総代会と上級オペレーター認定式を開催しました。

総代会では、協議会規約などの改定、2022年度事業報告・収支決算、23年度事業計画・収支予算を協議し、全ての議案が承認されました。

上級オペレーター認定式では、22年度に実施した認定試験の合格者15人に対し、大島信之会長（JAさがが代表理事組合長）が認定証と記念品を授与しました。

上級オペレーターは、カン

今回の認定により、上級オペレーターは累計118人（21道県）となりました。

十分な技術・知識を持ち、他オペレーターの指導育成や模範となることが期待されます。合格者からは「これまで取り組んできた内容が認められ励みになる」「品質事故を起こさないような施設運営を心掛けたい」など喜びと決意の声が上がりました。

農業用ドローンによる水稻種子散播実演会

ICT技術を活用してスマート農業を普及促進

秋田県本部

圃場を飛ぶDJI社製ドローン



散播された業務用多収品種「ゆみあずさ」



秋田県本部は5月9日、生産者、JA秋田おぼこ、(株)丸山製作所の協力のもと、大仙市で「農業用ドローンによる水稻種子散播実演会」を行いました。県内の生産者やJA担当者も参加しました。

近年、生産現場で導入が進む農業用ドローンの使用は除草剤や殺菌殺虫剤の農薬散布がメインとなっており、水稻種子散播のニーズもあります。しかし、水稻種子散播はオペレーターの熟練度によって吐出量の調整や均一散布への影響が大きいことが課題となっており、今回の実演会は目標収量が得られる好適な散播条件を確認するために実施されました。

実演会では約1畝の圃場に、DJI社製ドローン「T30」を用いて、業務用多収品種「ゆみあずさ」のべんがらモリブデンコーティング種子を10㎡当たり約5kgまき、散播時間や均一にまかれていくかなどを確認しました。

県本部は引き続き、ICT技術を活用したスマート農業の普及促進に取り組んでいきます。

News!



広島大学と共同研究 鶏ふん堆肥の活用探る

2年目は水田のメタン発生抑制、中干し期間など調査

広島県本部



鶏ふん堆肥を散布する職員

2023年度は温室効果ガスによる環境負荷軽減を目指し、水田からのメタン発生の抑制も調査します。中干し期間を1週間程度延長するとメタンの発生を抑制できますが、同時に生育や収量にも影響します。今年はその中干し期間の延長が稲の生育や鶏ふんの肥効にどのような影響を与えるかを調査します。

同大学大学院統合生命科学研究所の長岡俊徳准教授は「農業を通して気候変動の影響を軽減し、SDGs（持続可能な開発目標）に貢献したい」と力を込めて話しました。

広島県本部は広島大学と水稻栽培における鶏ふん堆肥の有効活用に向けて、2年目となる共同研究を開始しました。

News!



ニューヨークで日本産農畜産物の魅力を発信

日系和牛レストラン「J-Spec」の屋台で日本産米をPR

全農アメリカ(株)

多くの人でにぎわうジャパニストリート・フェア



「日本産の和牛とお米のコンビは最高」との声が上がりました。今後もこのような取り組みを通じて日本産農畜産物の普及に努めていきます。

このイベントでは20店以上の日本食屋台が並んだほか、日本の伝統や文化を紹介する「ジャパン・パレード」も開催されました。全農グループは、現地の和牛レストラン「J-Spec」に協賛し、新潟県産「コシヒカリ」を使用した和牛すしロールを販売しました。

すしロボットメーカーの鈴茂器工(株)と連携し、簡単に高品質な巻きずしを提供。ニューヨークからは

全農アメリカ(株)とJA全農インターナショナル(株)は5月13日、ニューヨーク・マンハッタン島内で開催されたジャパニストリート・フェアに協賛し、和牛すしロールを販売しました。

News!



卵のプロがオムライス検定をガチ受験

カゴメとコラボ企画でオムライスの魅力を発信

JA全農たまご(株)・園芸部



オムライスアンバサダーに認定された6人

検定には、(一社)日本卵業協会が認定する卵のソムリエ・通称「タマリエ」資格の取得を推進する全農たまごと、カゴメが主催する「野菜をとろうキャンペーン」に企画している全農の代表者、2団体以外の五ツ星タマリエ取得者が参加。それぞれの分野のプロとしてオムライス検定に挑戦し、オムライスを作るコラボ企画です。この企画を通じて、「お米・野菜・たまご」の魅力を伝え、消費拡大を目指します。

全農とJA全農たまご(株)は、卵のソムリエ・五ツ星・三ツ星タマリエがカゴメ(株)の「オムライス検定」を受検するコラボ企画を5月25日に開催しました。受検者はオムライス検定に全員合格。今後「オムライスアンバサダー」として食の発信をします。

審査講評

- 各企業の提案がよく、今回が最も接戦だった。
- 高齢者に視点をあてた企業もあり、今後、JAグループが向き合わないといけない骨太のテーマを出していただいた。
- 高校生、女性の起業家、農業だけではなくフィンテック*の分野での提案があり、多様性に富んでいた。
- 過去に選考から漏れた企業が再びチャレンジし、今回、優秀賞に入ったことがうれしい。

※金融と情報技術を結びつけたサービス



【審査員を務めた 落合成年参事のコメント】

今回は史上まれにみる接戦で、審査会では優秀賞の選定に最後まで激論が行われました。惜しくも選に漏れた企業も含め、いずれも農業や社会の発展に貢献できるものと確信しています。

本プログラム期間中における実証試験にあたっては、今期も最大100万円の実証実験費用を補助し、採択企業の成長サポートを強化します。また、採択外となった5社（イノベティブ賞）についても、本プログラ

ム外で別途協議や支援の検討をしていきます。今後約5カ月間にわたるプログラム期間終了後の11月には成果発表会（デモデイ）を予定しています。

優秀賞を受賞した採択企業10社のプラン名

ASTRA FOOD PLAN株式会社	乾燥・殺菌装置「過熱蒸煎機」で「かくれフードロス」の削減とアップサイクル
株式会社AGE technologies	相続手続きのDX化支援、家族間資産利活用のご提案
輝翠TECH株式会社	JAと連携し、AIロボットで 家族系果樹農家の所得を向上させる
KDBI株式会社	水稻土中施肥技術【深肥】による農業環境と水田経営への貢献
株式会社TRINUS	埋もれた農業資源をクリエイターコミュニティにより発掘し、ビジネス化する
株式会社フェイガー	農業由来カーボンクレジット生成&販売
株式会社ベンナース	港と食卓を繋ぐお魚サブスク“フィシュル”
mizuiro株式会社	おやさいクレヨン®を軸とした アップサイクル ブランド化 事業
株式会社ミライ菜園	AIが毎日届ける病害虫予報で、農薬半減、収量最大40%アップ
株式会社RelieFood	食のバリアフリーを実現するお菓子ブランド「Issa Kitchen Tokyo」

イノベティブ賞（5社、五十音順）

※本プログラム外で別途協議や支援を検討する企業

Anantya株式会社
株式会社シンク・ネイチャー
株式会社NEXT NEW WORLD
株式会社huntech
株式会社LacuS

ビジネスプランコンテスト参加企業の
発表はこちらから視聴できます。

【YouTube あぐラボチャンネル】





優秀賞を受賞した採択企業とイノベティブ賞の代表

JAアクセラレーター第5期

採択企業10社を決定

スタートアップ企業とJAグループがビジネスプランコンテスト
キーワードは「食と農、くらしのサステナブルな未来を共創する」

JAグループ全国組織8団体が共同で設立した一般社団法人AgVenture Labは、JAグループと革新的なアイデアや技術を持ったスタートアップ企業が連携して、農業や地域社会が抱えるさまざまな課題解決を目指す「JAアクセラレーター第5期」（以下、本プログラムという）の採択企業を選定するビジネスプランコンテストを5月25日に開催しました。

【経営企画部】

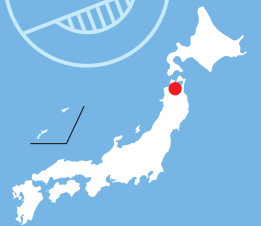
JAアクセラレーターは、AgVenture Labが取り組む、農業や地域の抱えるさまざまな課題の解決を目指すスタートアップ企業を短期・集中的に支援するプログラムです。

5期目となった今回は「食と農、くらしのサステナブルな未来を共創する」をキーワードに、既存ビジネスに捉われない新しい発想や技術に基づくビジネスプランを幅広く募集し、189件の応募がありました。

今回、書類・面談選考を通過し最終選考に進んだ

15社のうち、本プログラムへ参加する10社のスタートアップ企業（以下、採択企業という）を優秀賞として採択しました。

採択企業は、今後約5カ月間、JAグループや本プログラムのスポンサーである全農と農林中央金庫の職員による伴走支援を受けながら、ビジネスプランをブラッシュアップさせていき、JAグループとの協業を検討していきます。



「食べてもらおうと頑張れます。」 羽田空港に理解訴えるメッセージ看板

青森県本部は昨年7月31日から、東京・羽田空港第1ターミナルに4枚の看板を掲げました。生産者の高齢化や担い手不足による生産基盤の脆弱化、農業現場における生産コスト増の現状などについて、消費者への理解醸成と販売促進を図ることを目的としています。

4枚の看板に込めた 作り手の情熱や思い

農家応援メッセージ・米・リンゴ・野菜の4枚を連続して掲出し、空港を利用して国内外の多くの消費者に向けて県産品を大々的にアピールしています。場所は2階北ウイングのコンコース「動く歩道」脇の壁です。

1枚目は、生産者の笑顔とともに「農家を続けていくことは大変です。でも、食べてもらおうと頑張れます。」というメッセージ付き。組合員が自身で生産した農産物を手にした写真を背景に、消費者に訴えかけるような工夫を施しました。

生産量第1位を誇るリンゴや、野菜、米をデザインした3枚には「青森県産・だから、うまい」と作り手の

情熱や思いが伝わる内容に。背景には収穫する生産者と農産物を手にした写真を使用しました。

米の新品種も加えて 3月にリニューアル

米の看板には、今年10月に全国デビュー予定の新品種「はれわたたり」のデザインを新たに加え、3月にリニューアルしました。「はれわたたり」は、「コシヒカリ」と「ひとめぼれ」をルーツにもつ、透き通るような白さとふつくらとしたやさしい食感が特徴。食味ランキングでは参考品種ながらも特A評価を獲得し、青森県産米としての成長が期待されています。

リンゴの看板に登場するJAつがる弘前組合員の山形言之さんは「1人でも多くの人が現状を理解し、県産品を手取る人が増えると

うれしい。それが農家の励みにつながる」と思いを語りました。

また、本県には知る人ぞ知る品目が数多くあります。青森県内に限らず全国の誰もが知る県産品になるよう、キャッチフレーズ「食べて応援!!」まると青森」を活用し、空港看板をはじめとするさまざまな機会での消費を促す宣伝活動の拡充に取り組む、知名度向上を目指します。



農家が農産物を手に訴える全体のメッセージ



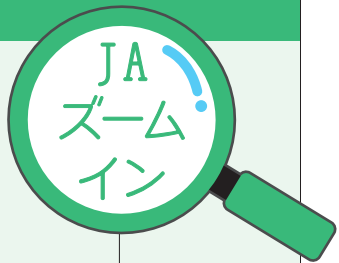
野菜編



リンゴ編



米編



スイカからハウレンソウへ

若手がハウス栽培の規模拡大

群馬県のJA太田市は県の南東部に位置し、22年前に三つのJA、12年前にさらに一つのJAが合併し設立されました。主要な農作物としてはハウレンソウやナス、スイカなどが挙げられます。



夫妻で「藪塚こだま西瓜」を収穫する生産者



JA太田市野菜センター運営委員会スイカ部会の役員

「藪塚こだま西瓜」
全国ブランドに

JA太田市管内の藪塚地区は1920年ごろスイカ栽培が始まり、特産「藪塚こだま西瓜」の生産が盛んな地域です。「藪塚こだま西瓜」

は36軒の生産者が栽培を続けており、贈答用としての人気も高く、全国的に知名度が高まっています。生産者が長い歴史の中で培った技術と手間を惜しまず注ぎ込んだスイカは糖度が13〜14%となり、その甘さからリピーターも多くいます。



ハウレンソウを収穫する生産者

たハウレンソウを周年で栽培するようになりました。以降、ハウレンソウや小松菜のハウス栽培を主軸として、藪塚地区の農業は発展してきました。群馬県はハウレンソウの出荷量が全国1位であり、その中でも太田市は上位の出荷量となつています。さらに、トウモロコシやモロヘイヤ、エダマメなどさまざまな農作物を栽培しています。

地域の労働力生かし
効率的な生産出荷

藪塚地区では近年、親世代から農業経営を引き継いだ30、40代の生産者が法人化などを行い、大規模な形態での農業経営が増えていきます。農業の大規模経営化

は、栽培面積の増加に伴う労働力の確保によって地域に雇用を創出したり、家族の高齢化により従来の家族経営による農業経営が困難になった生産者を即戦力として雇用したり、地域に影響を与えています。

大規模経営化した生産者は、親世代で培ってきた栽培ノウハウを受け継ぎ、さらに経営規模を拡大することで効率的な生産・出荷が可能となり、ハウスの棟数は多い生産者で約200棟に及びます。JAでも座談会への参加の呼びかけや正組合員全戸訪問での意見聴き取りの強化を実践して生産者を支えることで、藪塚地区全体の農業の活性化を目指しています。

JA太田市 (群馬県)



概要	2023年2月28日現在
正組合員数	3322人
准組合員数	9453人
職員数	226人
販売品取扱高	52億4千万円
購買品取扱高	17億4千万円
貯金残高	981億1千万円
長期共済保有高	2189億1千万円
主な農畜産物	「藪塚こだま西瓜」、 ハウレンソウ、 小松菜、ネギ、ナス



「国産ハウスみかんフェア」開催中

直営飲食8店舗でオリジナルスイーツを提供

全農は直営飲食店舗8店舗で6月23日~7月5日、全国柑橘消費拡大協議会との初のコラボ企画「国産ハウスみかんフェア」を開催します。

「ハウスみかん」は、ビニールハウスなどの施設で温度や水分量などを丁寧に管理し大切に育てた温州ミカンで、高い糖度とバランスが良い酸味が特長です。施設内で栽培しているため天候の影響を受けにくく初夏に旬を迎え、味はもちろんのこと、見た目もきれいなおいしいミカンが楽しめます。

フェアでは、旬の「ハウスみかん」をふんだんに使用したオリジナルスイーツを各店舗で提供します。各産地の「ハウスみかん」は、JA全農が運営する産地直送通販サイトJAタウンでも購入いただけます。

ご購入はこちら



メニュー提供概要

期間：6月23日(金)~7月5日(水)

実施店舗：以下8店舗

- (1) みのりダイニング札幌ステラブレイス
- (2) みのりカフェエスバル仙台
- (3) みのりカフェ銀座三越
- (4) みのり食堂銀座三越
- (5) みのりダイニング名古屋
- (6) みのりカフェアミュプラザ博多
- (7) みのりカフェ季楽佐賀コムボックス駅前
- (8) カフェ&ダイニングみのりみのりアミュプラザおおい

詳細は



をご覧ください



ハウスみかんのパフェ
(みのりカフェアミュプラザ博多)
1298円(税込)

「銀座ショコラ大福」3商品を数量限定販売

ゴディバ×銀座千疋屋×全農が共同開発

全農は、ゴディバ ジャパン(株)、(株)銀座千疋屋と、栃木県産とちおとめ、香川県産キウイ、鹿児島県産さんかんを使用した「銀座ショコラ大福」3商品を共同開発しました。6月14日から一部のゴディバショップにおいて数量限定で販売しています。

【営業開発部】

香りの良さや、チョコレートとの甘み、酸味の相性を考慮して厳選した果物を、ベルギー産チョコレートを使用した濃厚なクリームとココア入りのもっちり食感の餅で包み、ココアパウダーで贅沢にコーティングしました。

甘さと酸味のバランスが抜群な「栃木県産とちおとめ」、甘味

が強く濃厚な味わいと爽やかな風味が特長の品種「香緑」を用いた「香川県産キウイ」、皮ごと食べられ、甘さと程よい酸味が特長の「鹿児島県産さんかん」を使用し、みずみずしい果物とチョコレートのコンビネーションが楽しめる商品に仕上がりました。



銀座ショコラ大福
栃木県産とちおとめ



銀座ショコラ大福
香川県産キウイ



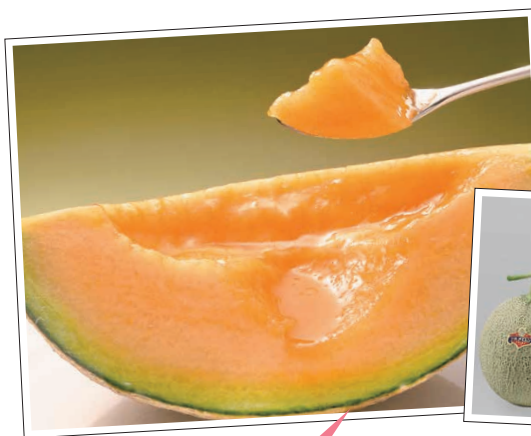
銀座ショコラ大福
鹿児島県産さんかん



JAタ張市

「タ張メロン」最高クラスの「秀品」は、豊かな甘さはもちろんのこと、美しく張られたネットが特徴です。熟練の生産者が、一玉一玉丹精を込めて大切に育てました。気品漂う外観の果実は、割る前から芳醇な香りを醸し出します。果肉は鮮やかなオレンジ色。繊維質が少ないため口の中でとろけるほど柔らかく、ジューシーです。

食べる2~3時間前に冷蔵庫で冷やすと、さらにおいしくお召し上がりいただけます。お中元や夏のギフトにもお勧めです。



タ張メロン 秀品1玉……6300円(税込)

ご注文はこちらから



▶ JAタウンはこちらから <https://www.ja-town.com>
▶ お問い合わせは shop@ja-town1.com



『JA全農トピックス』の
ツイッターはこちら



私たち全農グループは、
生産者と消費者を 安心で結ぶ懸け橋
になります。